市民公開講座

主催 日本消化器外科学会

# 消化器外科医がいなくなる日？

## ～外科の危機から見える、私たちの医療の未来～

「がんの手術が受けられなくなる」
「救急車を呼んでも、診てくれる医師がいない」
そんな未来が現実になりつつあることを、ご存じでしょうか？

いま、消化器外科を志す若手医師が急速に減っています。
消化器外科は、がんの手術、緊急手術、交通事故などの外傷対応、抗がん剤治療、さらには夜間や休日の救急医療まで、“命に関わる医療”の要として、今も現場を支え続けています。しかしその一方、診療科の中でも業務負担がかなり大きいため、外科医志望者は減少の一途で、昨今の報道でご覧になったこともあるかと思いますが消化器外科医は10年後には現在の4分の3、20年後には半分まで減少してしまうと予測されています。

一方で、医療の現場は今、大きく変わろうとしています。
体への負担が少ないロボット手術などが広がり、外科治療は日々進化しています。
また、高齢の方や持病を持つ方など、体の状態が複雑な患者さんも増えており、どんな治療が最善かを一人ひとりに合わせて慎重に判断することが、ますます求められています。
外科医には、最新の技術を使いこなす力だけでなく、幅広い知識にもとづく総合的な判断力が不可欠なのです。

そのような中、外科医たちは日々知識を磨き、技術を修練し、命に向き合い続けています。
しかし、その努力や責任に見合った評価が十分とは言えず、若い医師たちの外科離れが進んでいます。その代表例が「直美（ちょくび）」であり、一般的な保険診療での経験をまったく積まずに、すぐに給与や条件の良い美容医療の道に進む若い医師が増えています。このままでは「がんの手術を担う医師がいない」という深刻な未来につながっていきます。

私たち消化器外科医は、この危機を社会全体の課題として共有し、行動を始めました。
この問題は、消化器外科だけのことではなく、今後さまざまな診療科に広がっていくと私たちは感じています。だからこそ、私たちは声を上げ、社会全体で医療の未来を考える場をつくることにしました。
今回の市民公開講座では、消化器外科の現場から見える医療の課題をもとに、国民の皆さんとともに「どうすれば安心して治療を受けられる医療を守れるのか」その第一歩を考える場にしたいと思っています。

どうかこの機会に、日本の未来の医療について、一緒に考えてみませんか？

### プログラム

**第一部**　14：00～
司会：竹内 裕也（日本消化器外科学会副理事長（浜松医科大学外科学第二講座）
齋浦 明夫（日本消化器外科学会副理事長（順天堂大学消化器外科講座））

**1．消化器外科医の仕事，これまで**
調　憲（日本消化器外科学会理事長（群馬大学総合外科学講座））

**2．消化器外科学会のアンケート結果から**
黒田 慎太郎（広島大学大学院 医系科学研究科 消化器・移植外科学）

**3．消化器外科医をとりまく現状**
- **働き方改革は医療の世界にも～消化器外科を未来につなぐ制度のはなし～**
  藤川 葵（久留米大学）
- **若手外科医の働き方のリアル～現状と必要な支援～**
  **女性の視点から**
  阪田 麻裕（浜松医科大学外科学第二講座）
  **男性の視点から**
  今村 一歩（長崎大学病院肝胆膵・移植外科）
- **勤務体制改善の取り組み～24時間365日，働けますか？～**
  藤井 努（富山大学消化器・腫瘍・総合外科）
- **待遇改善の取り組み～過酷な現場に見合う評価と支援のために～**
  大段 秀樹（広島大学大学院 医系科学研究科 消化器・移植外科学）
- **国民の皆様にご理解頂きたいこと**
  比企 直樹（北里大学医学部上部消化管外科学）

**第二部～ディスカッション**　15：30～
司会：比企 直樹，大段 秀樹
ディスカッサント：調，黒田，藤川，藤井，阪田，今村

## 2025/5/10㊏　14時▶16時

## 順天堂大学 小川講堂

東京都文京区本郷2-1-1 7号館（A棟）1階
JR・地下鉄「御茶ノ水」駅下車　徒歩5分

**入場無料　事前登録なし**（当日直接会場へお越しください）